

令和3年度 広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略外部評価会議

(令和3年10月14日開催)

項目	主 な 意 見
県内企業への就職促進について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県内には、働き方改革に取り組み、従業員を大事にする企業が非常に多いが、そういった企業の認知度が低い。経済界としては、教育機関や行政と連携しながら、そういった企業を知ってもらうための場を作ることが大事だと思っている。 ○ 仕事へ人を集めるには、暮らし全体を充実するという視点が重要である。暮らしやすさの指標を作ってそれをブランド化することと、就職時の転出超過を下げるということを一体的に考えてもいいのではないか。 ○ 「ものづくり」や「デジタル」というと、文系の学生が少し抵抗感を覚えてしまう。広島県の産業の特徴としてメーカーからの求人が多いという背景はあるが、文理融合ということを意識してもらい、それを発信していただくと、就職の選択肢が増えると思う。
働き方改革の促進について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 育児休業など、多様な働き方ができる制度の導入率が100%でも、活用率がとりわけ男性の中で低いという問題がある。制度化して解決ではなく、その制度が実際に運用されているかということを重視する必要がある。
魅力ある高等教育環境の発信について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進学に伴う人口減少を食い止めるには、高等教育の差別化を図り、魅力ある高等教育環境を発信する必要がある。また、就職に伴う人口減少を食い止めるにはインナーブランディングが必要である。
ブランド発信について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「多様な主体の」というキーワードはいいと思う。「多様」にも色々あるが、広島市が国際平和都市であることや、海外からの観光客が多いことを活かし、特に外国人の暮らしや観光を強化していくことは、他県には真似できないと感じた。 外国人が住みやすい町を目指したとしたら、子育て世帯が、「グローバルな子供が育つかも说不定」というイメージを持つことにもつながると思う。 ○ 民間企業が都道府県魅力度ランキングを発表しているが、これは消費者向けのアウトナーブランディングである。都道府県の認知度が上昇すると、ランキングの順位も上がるので、サステナブルな情報発信が必要である。
人口推計について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2021年1月1日現在で、戦後生まれ（76歳未満）の高齢者数が戦前生まれ（76歳以上）の高齢者数を追い抜いており、消費や生活の仕方それに対する政策対応等も変わってくると予想されるため、準備が必要である。 ○ 住民基本台帳ベースの人口の増減を見ると、2013年から2021年の間に日本人は減少しているのに対し、外国人は増えており、増加率も高いことから、今後政策的な対応が必要となる。 ○ データを分析したところ、2020年の大学等への進学者が約14,000人程度となっているが、18年後には約10,000人となる可能性があるため、大学等の再編や統合が迫られてくると予想される。

項目	主 な 意 見
効率的な医療提供体制の整備について	<ul style="list-style-type: none"> ○ HMネットを活用し、マイナンバーカードと保健医療、健康づくり等のデータを組み合わせて、医療ネットワークを充実させるといったような取組を、実験でもいいので行っていただきたい。
生産性向上支援事業について	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で広島県の農産物が非常に余っている。こうした状況下において、圏域の農家が生産工程管理（GAP）を導入したり、もう少し危機感を持って対応することも必要。 ○ 広島県の農業者の平均年齢が70歳を超えており、後進の育成や農業企業体の育成について考える必要がある。 ○ 食品関連企業だけではなく、IT関連企業等の異業種からの農業参入も促進してはどうか。 ○ 圃場整備事業を進めて環境を整えた上で、ICTの活用を進めていけば、企業は農業に参入しやすくなると思う。
持続可能な国際平和支援メカニズムの構築について	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍にも関わらず、KPIとして設定している県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数の目標が達成できたのは、オンライン活用等の新しい取組を実施した成果だろうと思う。今後は、広島に来て広島の中で何か事業を起こすという従来型の取組を応援するとともに、オンラインを活用した新しい取組を継続してもらうようにすれば、指標がより達成しやすくなると思う。
地域産業AI/IoT活用推進事業について	<ul style="list-style-type: none"> ○ サンドボックス事業については非常に重要な取組であると認識しているが、費用面のハードルが高く事業継続が困難である、横展開することが難しい、という声も聞いているので、今後支援が必要だと考えている。